



図 4-4 広域イーサネット構成図

4. 4. 2 LGWAN 以外のネットワーク回線種別の特徴

LGWAN 以外のネットワーク回線種別を検討する際の目安として、専用線と広域イーサネットを参考例として各回線種別の特徴を以下に示します。

システムの稼動にあたっては、広域イーサネットの使用形態が特定できないため、標準システムとしては LGWAN 及び専用線を利用した場合に必要なセキュリティレベルを踏まえた環境設計を行います。したがって、広域イーサネットを使用する場合、各広域連合で通常の専用線相当までのセキュリティ対策を図る必要があります。

また、ネットワーク機器についても、各広域連合における使用方法に応じて別途標準構成で想定する機器以外に追加などが必要になる可能性があります。

表 4-30 専用線と広域イーサネットの特徴

区分	専用線	広域イーサネット
セキュリティ	特定の顧客専用の回線であるため、盗聴・情報漏洩・改ざんの可能性が低い。	VLAN によりユーザを分離するため、セキュリティは専用線よりも劣るが、暗号化することにより専用線と同程度のセキュリティレベルを確保可能。
回線コスト	距離区分に依存する。 拠点毎に回線を用意する必要がある為、高コスト。	距離区分に依存しない。 センタ側の回線・機器の共用が可能なので、コストが低くて済む。
機器コスト	拠点数が増えるほど、センタ側のインターフェースの必要数が多くなる。 回線種別によって、高価なインターフェースが必要となる。	拠点数が増えてもセンタ側のインターフェースの必要数が専用線より少なくて済む。 端末側インターフェースが 10/100M Ethernet インターフェースなので、安価。